情報かわら版

川崎市立小学校情報教育研究会
会長　青木あゆ子（川崎市立旭町小学校）
令和4年 5月
担当　西有馬小学校　湯浅哲雄

オンライン研修会(5/11)報告号

大阪教育大学 木原俊行 教授
「主体的・対話的で深い学びとGIGA端末の活用」

学校としての取り組みを発展させるために

大阪教育大学より木原俊行先生をお招きし「主体的・対話的で深い学びとGIGA端末の活用」をテーマにご教授いただきました。

はじめに、情報活用能力の育成の取り組みについてお話がありました。昨年度できなかったことをできるようにしたり、できることのレパートリーを増やしたりすることが、GIGAスクール構想2年目である本年度の目指すべき目標であると教えていただきました。その際には、教師一人一人が自分の授業をどう改善していくのか、学校全体としてはどんなベクトルで取り組んでいくのかという2つの視点で考えていくことが大切であるとのことでした。主体的・対話的で深い学びの実現に向けたICT活用の充実や、それによる児童の資質・能力の高まりを目指して、個々の教員による多様な実践の共有や、学校全体で共通して育成する情報活用能力の設定、そのための研修の企画運営が求められていました。

主体的・対話的で深い学びとは

次に、主体的・対話的で深い学びの本質は、「学び直し・やり直し」であると教えていただきました。文部科学省の資料より、GIGAスクール構想におけるICT活用に関する「学び直し・やり直し」の例や、各校での実践例の紹介がありました。具体例を示していただいたことで「学び直し・やり直し」により、深い学びが実現されることがよくわかりました。また、ICTのよさである「やり直しのしやすさ」「共有のしやすさ」が、主体的・対話的で深い学びとGIGA端末活用のよき接点であるとのご指摘もありました。深い学びにするために教師が行うべきことは、児童の意欲をかき立てる魅力をもち、児童が多面的に考えることができるような教材の準備や学習課題の設定であるとのことでした。

カリキュラムマネジメントについて

カリキュラムマネジメントではまず、学習の基盤となる資質・能力についてのお話がありました。情報活用能力、言語能力、問題発見・解決能力の3つの資質・能力は、それぞれ個別に独立したものではなく、部分的に重なり合い、相互に関連し合っているものであると教えていただきました。また、文字入力のスピードがその後の資質・能力の高まりに影響を与えるので、キーボード入力をカリキュラムで位置付けトレーニングすることが、自律的な問題解決的学習者に育っていくための礎になると教えていただきました。各学校の情報活用能力カリキュラムマネジメントでは、文部科学省IEスクール事業「情報活用能力の体系表」を参考にして自校にとって重要なものをピックアップし、優先順位をつけながら複数年かけて、より多くのものに取り組んでいくことが大切であるとのことでした。

木原俊行先生の講演資料より

25

今日のカリキュラム・マネジメントの３つの側面

- 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え，学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で，その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- 教育内容の質の向上に向けて，子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき，教育課程を編成し，実施し，評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。
- 教育内容と，教育活動に必要な人的・物的資源等を，地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

26

学習の基盤となる資質・能力

学校で最も弱い（課題のある）ところは？